

奥行地区文化財を巡るイベント「奥行臼散策デー」のお知らせ！

日 時 10月8日（日）午前10時から午後2時

主会場 旧奥行臼駅通所（奥行15番地12）

主 催 別海町教育委員会

共 催 別海町グリーンツーリズムネットワーク

内 容

- ・乗馬体験
- ・旧奥行臼駅トロッコ乗車体験（乗車記念切符付き）
- ・別海音頭・野付音頭手踊り披露（午前10時・午後1時）
- ・別海高校生手作りヨーグルト販売
- ・軽食提供（コーヒー・甘酒・クラッカーなど）
- ・奥行地区文化財見どころツアーガイド（午後1時15分駅通所前集合）



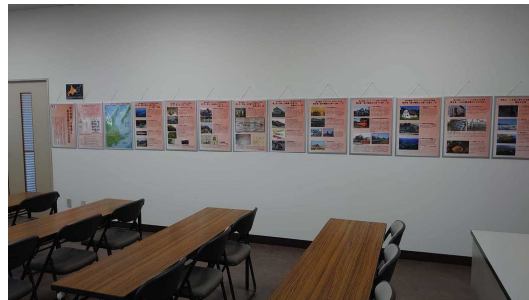
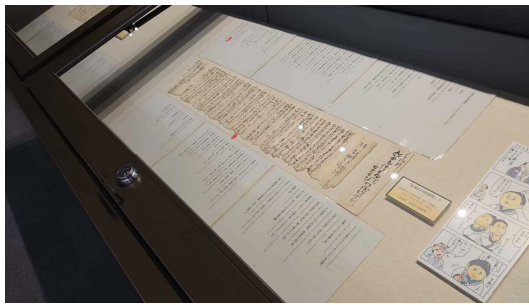
松浦武四郎記念館（三重県松阪市）で開催中の

日本遺産「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程 普及啓発展示会「メナシのアイヌとともに生きる～加賀伝蔵・松浦武四郎・南摩綱紀～」について



9月29日（金）～11月26日（日）にかけて開催される展示会がいよいよはじまり、オープニングイベントとして、日本遺産「鮭の聖地」の物語講座も開催されました。





「メナシのアイヌとともに生きる～加賀伝蔵・松浦武四郎・南摩綱紀～」その2

「加賀伝蔵、蝦夷地へ渡りアイヌとともに生きる」

加賀家の初代徳兵衛は、加賀の国(石川県)の出身で、蝦夷地を目指し船出しましたが、途中時化にあい、八森(秋田県八峰町)の海岸に漂着しました。八森に居を定め、再び蝦夷地に渡りました。加賀家の一族は、19世紀初頭から明治の初めにかけて、代々蝦夷地に渡り釧路・根室地方の場所請負人(商人)のもとで仕事をしていました。加賀家が残した蝦夷地での記録史料は、「加賀家文書」と呼ばれ一族により大切に保存されてきました。

「加賀家文書」のほとんどは、三代目伝蔵によって書き残されたもので、継立御用文書、申渡書の写、アイヌ語和訳、和文アイヌ語訳、地図、写本など多種多様であります。

伝蔵は、父徳兵衛や兄鉄蔵にならい蝦夷地へ渡り、熱心にアイヌ語を習得し通辞(アイヌ語通訳)として活躍しました。遠く離れた八森から妻や息子呼び寄せ生活を共にするなど、一生の大半を蝦夷地で過ごしました。

幕藩体制化の蝦夷地で、場所請負人はアイヌに対し非道な扱いをしたので、アイヌ民族社会は困窮し、壊滅的な打撃を受けました。そのような中で伝蔵は、通辞としてアイヌとともに生き、幕府、藩の申渡を守りこの地にたくさんの業績を残しました。場所請負人も蝦夷地経営のためには、長期間にわたり蝦夷地に滞在していた伝蔵の経験と知識はなくてはならないものでした。後年は、その業績が認められ大通辞の称号が与えられました。



加賀 伝蔵

別海町郷土資料館だより No.291

発行日 令和5年10月1日
発行所 別海町郷土資料館
別海町別海宮舞町 30 番地
電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

編集後記 今年度は、白老町・ウポポイや三重県松阪市での日本遺産普及啓発展示会を開催しています。ウポポイはすでに終了しましたが、道東地方の知名度は、低いと感じました。人のいる所には歴史有りと、様々な人々がたくましく生きた証が沢山あります。少しでも伝えていけたらと思うところです。